

龍谷顕真会会報

も く じ

記念講演

「“新新宗教”とは何か — 宗教状況とその意味するもの —」…………… 2～6

毎日新聞大阪本社編集委員 横山 真佳

平成4年度 会員活動報告…………… 6～10

総会・世話人会報告、会員の動静…………… 10



△ 記 念 講 演



△ 協 議 会

▽ 懇親会も賑やかに

▽ 熱っぽく情報交換



総会フォト

92.5.25・26



◇結論からいこうというなる。
「龍谷顕真会初の海外視察、実施を断念」一。十一月十七日に開催した本会世話人会で、なが年の念願だった海外視察を二月中旬に実施することを申し合わせた。渡航先はハワイ。別院参拝、州知事、市長への表敬訪問と福祉施設の視察がメインプランである。要請を受けた事務局ではさっそく旅行会社と折衝を開始したが、「正月明けまでに参加者が確定しないと。大丈夫ですか」と不安顔。実施するか否かの決定も事務局「一任」だったのでやむなく断念した次第である。だが、準備期間に余裕があれば「実施できそう」との確信を持つことができた。実施の折は家族同伴でぜひご参加を。目標二十人以上！
◇宗門は農村を基盤に発展してきた。「活動報告」を読んでもそのことがうかがえる。会員の多くが農村の過疎・高齢化・後継者難の三Kと苦闘されている。コメの輸入化必至というから四K間違いない。会員の苦闘ははてしなく続きそう。それでもひたむきさは僧侶ならではの。我行精進、終不悔のお心もちが有難い。

記念講演

「新新宗教」とは何か

宗教状況とその意味するもの

毎日新聞大阪
本社編集委員

横山真佳

現世利益は過去のもの

ご承知の通り、「新新宗教」と呼ばれる新しいタイプの新宗教が出てきて話題を呼んでいます。

昨年（平成三年）、週刊誌などで大いに取



り沙汰されたのが「幸福の科学」でした。東大法学部卒の大川隆法という、若い指導者を教祖と仰ぐ新しい宗教。霊界との通信をもとに書いたとされる釈迦や日蓮、イエス、マホメットまでの各種『霊言集』などを矢つぎ早に出版し、自ら「仏陀の再誕（生まれかわり）」、さらにはそれを超える存在と主張しました。

一時期、少し大きい書店へ行けば「大川隆法コーナー」が見られる盛況ぶりでした。若い世代を中心に争って読まれました。そういう若者と、三十代位の主婦層も結構集まってきましたが、そういう人々を大動員し、東京ドームを借り切り数万人の大集会を開いたのがこの年の夏のことでした。

出版物を媒介に、出版物でメッセージを伝

講師略歴

横山真佳（よこやま・みちよし）

昭和十二年（一九三七）兵庫県加古川市生まれ。関西学院大学商学部卒業。毎日新聞社に入社。高松、京都支局を経て、大阪、東京本社勤務。現在、大阪本社学芸部編集委員。関西学院大学社会学部非常勤講師を兼務。この間、連載企画『宗教を現代に問う』（昭和51）、『宗教は心を満たすか』（同63）の取材チームに参加。『宗教を現代に問う』は菊池寛賞を受賞した。著書に『宗教を現代に問う』（全五冊、共著、毎日新聞社）、『新宗教の世界』（五冊、共著、大蔵出版）、『古事記の証明』（共著、毎日新聞社）、『天皇制を問う』（共著、亜紀書房）、『神聖国家日本とアジア』（編著、勁草書房）、『新興宗教』（教育社）など。

えあおり、客寄せをするというのが、新新宗教の特徴の一つと言われています。情報化時代らしい、いわゆる「マスコミ宗教」の側面を持っている。時代の感覚にフィットする表現でメッセージを伝えることができるかどうか——伝統的な既成宗教がニガ手としているところかもしれませんね。

ともあれ、幸福の科学は典型的なそうした「マスコミ宗教」の一つでして、しかしその歴史は、実に浅い。東京・西荻南の知人宅二階を事務所に「幸福の科学」の看板を初めて掲げたのが八十六年十月。以来、今日までわずか五年です。大川教祖は大学を出て総合商社に勤務中の八十一年、GLAという霊能教団の故高橋信次教祖の本を読んで「霊的開眼」をしたと言います。これからでも九年です。

それが読者の動員に成功し、東京ドームの集会時点で会員数約二百万人。その年のうちに三百万人にする、二年余り先の九十三年末には一千万人の大教団になると豪語しました。

しかしその直後、講談社の写真週刊誌『フライデー』と衝突、大きな打撃を受けることになりました。

週刊誌だけではなく、テレビも連日扱いましたから経過はご承知の通りです。

「講談社フライデー全国被害者の会」がつくられ、作家の景山民夫氏、女優の小川知子さんが街頭デモをしました。

「作家生命、今生の生命をかけて戦う」という景山さん。デモをし、テレビに登場して涙ながらに叫ぶ小川知子さん。激しいものがありました。

新新宗教の主たるにない手は若者、子供との説があります。そんなことから「新新宗教は若者のデイズニールランドだ」と述べる研究者もいます。ファミコン、コミックまんがで育った今の若者たちはオカルト、霊能力、ホラー、SFが大好きです。新新宗教ばやりの背後には、こうした現代の若者の全体的な文化状況があると思います。新新宗教はあまり深刻な顔つきをしていません。スーツを着こなし登場する大川教祖はまるでビジネスマンだし、スポットライトを浴び壇上に立つ彼は

まるでスターです。

生活苦も人生苦もうかがわれない。生活のにおいがありません。そもそも新新宗教は現世利益を売り物にしていない。日本人の泣きどころの先祖供養もあまり語らない。オカルト、霊界、テレパシー、調和。遙かな世界が語られ、若者を上手に遊ばせ、そこに夢と理想を折りませ満足を与えているらしいのです。「底が浅い」などと批判するのは、大人の見方でしょう。若者の文化状況と感性に合った表現、集団の中での陶酔の演出が見られます。

フライデー事件の衝撃で、多くの若者が去って行ったようです。今の若者は群れても組織化されるのを厭がると言われます。「ゆるやかな組織」というのが新新宗教のもう一つの特徴とされています。組織に組み込まれた中核部分の他は、ただの読者であるのが幸福の科学の会員の大多数の実体でした。危機に際し、クモの子を散らすように消えていったわけです。

豊かな時代の個人宗教

幸福の科学は、ちょうどバブル経済の狂乱と軌を一に伸長し、バブルの崩壊と共にしぼんでいきました。たまたまの偶然のことなのかどうか。新新宗教全体が、たんなるはやりで一過性のものかもしれない。それは誰にも

まだ分らない。江戸の昔から「流行神」があつて、——あるいはもっと古い時代からあつたのか私にはその知識がありませんが——ともあれ日本では「流行神」なるものが出現しては、その時代々々の、人々の宗教的欲求、その宗教需要を満たしてきた事情があると思うのです。新新宗教はその現代版かもしれない。

そこで、今日、なぜこんな新新宗教なのかについての一つの結論ですが、ここで先に言いますと、それは既存の宗教が全く世俗化してしまい、思想的霊的な指導性と魅力を失っているからだ、と言えると思うのです。既成宗教で言えば、個人救済の論理を見失い、一人々々が生きていく上での宗教的欲求に対応できなくなっている現実が、新新宗教にかぎらず広く新宗教が伸長してきた大きな前提になっている。これはおおい隠しようのない事実だと思います。

その結果、巨大教団化した新宗教が、確固たる地位を占める現状となっています。戦後のわが国の宗教状況の最大の変化と特色はここにあるのではないでしょう。

さて新新宗教と呼ばれる新タイプの宗教群ですが、勿論、それぞれ一様ではありません。七〇年代になって台頭してきた呪術、神秘的傾向の強い新しい宗教群で、「新新宗教」なる言葉を使って初めてこれらの宗教を説明し

た東洋大の西山茂教授は、その代表的教団として阿含宗、GLA（ゴッド・ライト・アンシエーション）、世界真光文明教団などをあげています。他に真如苑、善隣教、そして昨年从今年にかけて話題をさらった幸福の科学、オウム真理教、統一教会（基督教神霊統一教会）なども、おお雑把に新新宗教として扱われている、——こんなところが代表的なものとしてあるわけですね。

GLAは、幸福の科学の源流となったとされる新しい宗教です。現在、高橋信次教祖の死後、いくつかの分派が生まれ、それぞれ独立した活動が続いている。真光文明教団も岡田光玉教祖が死んで、飛騨高山を本拠とする宗教真光教団が分派、独自活動をしています。

新新宗教はそれぞれに独自の教義と歴史を主張し、決して一様ではありません。立ち入った話ははぶきますが、西山教授によれば、これらは高度経済成長期に急伸した創価学会や立正佼成会などの大半の新宗教が大教団化し成就するとともに捨ててきた、神秘的、呪術的なものをあえて拾い上げ大胆に掲げ、伸びてきたと述べています。日本の民衆の宗教意識の基層にあるのはこうした呪術、神秘的な欲求なのでしょう。宗教組織が整備され、教義が合理化される——つまりそれが既成化と呼ばれるものの内容でしょうが、そうすると、その過程で呪術・神秘的なものは切り捨て

てられることになる。新新宗教は、しかしこれをすくい上げもてはやされている——ということになりそうです。

しかも、新新宗教は他方で、ニューサイエンスによる科学的色づけ——真の科学かどうか、一種の擬似科学というほうが正確でしょうが——ともあれ科学的な教義の味つけ、そして先にも触れた衛星通信まで取り入れるようなマスメディアの大動員——そのことで中身は古いもののむし返えしなのに、あたかも時代の先端を行くかたちとなっている——とも説明しています。

事実、これは幸福の科学についての評言ですが、東大宗教教室の島園進助教授によれば、幸福の科学が、一時的とはいえ若者を引きつけたのは①現代的な霊界観にもとづく体系的宇宙観を持つ②新宗教の重要な要素である「心なおし」の面もまた体系的に整備されている——とし、これらが魅力のポイントになっていると指摘しています。

「豊かさの達成による目標喪失。他方で進む社会の個人化による孤独と不安、ストレス。幸福の科学のように人類救済を前面に出し、強い主張をもって出てくるとワットとなった」島園助教授の言葉です。

霊的な体験を売り物に

かつての新宗教が「貧病争」に対応してい

たとすれば、新新宗教は豊かな時代の、しかも管理化され個人化された時代の宗教と言われています。孤独と不安、ストレスに対応しているとの見方。かなり当たっているのではないでしょうか。同時に、地球や人類の救いといった理想への献身のメッセージもある——との指摘です。

新新宗教の宇宙論、終末論、霊界との交流と救い。確かにうさん臭い。根の深さより、何やら底の浅さを感じさせられます。しかし、それにもかかわらず、新新宗教が時代に対応し、時代の課題、時代の文化状況の変化を表現している一面は否定できない。つくづくそんな気がしてくるのです。

しかし、次に新新宗教に関し、もう一步踏み込んで考えてみたいのです。それはかなり直接的な宗教体験に関することです。

既成化した宗教は教理教学が整備され、どちらかといえば教え中心です。儀礼も整い洗練されています。しかし、宗教のおそらく核心部分を成したはずの霊的宗教体験の側面がなおざりになっているのが普通です。しかし、新宗教、さらに新新宗教になるとその体験部分が結構むき出し。一つの仕掛けとして教理や理想を語るメッセージの背後にそれが存在すると言えそうですね。

幸福の科学の大川教祖は、GLAの高橋信次教祖により霊的な開眼をしたとされています。

す。このGLAは一九七〇年、高橋教祖が開いた教団ですが、手のひらから光を送り信者の「靈道を開く」ということを行います。一種の靈体験をさせるわけで、高橋教祖は講演の席上、しばしば会場の人を壇上に招き、向かい合って相手に向かい手をかざしました。すると靈波でも出るのでしょうか、その人は何語かわからない「異言」と呼ばれる意味不明の言葉を突然、ペラペラしゃべり始め、高橋教祖が「通訳」してその人の過去世を告げたりしました。例えば「この人がしゃべっているのは古代インド語である」として、その人が実は釈迦の弟子・阿難の生まれかわりである——といったことが告げられる。そしてこれで過去世がわかったわけで、ひいては過去世がわかるということは、とりも直さず魂が永遠で人間がみな輪廻転生するものであることを示すものと説明される。かくして信者はGLAに独自の靈的宇宙観を受け入れ、生活を改めていくことにもなる。こういう仕掛けがある。幸福の科学にも継承されているとされています。

しかも、このGLAの「靈道開き」に相当する神秘体験の技法はなにもGLA系宗教だけではない。新新宗教においては、それぞれに独自の技法があることが研究者によって報告されています。一般に、各教団の「秘儀」と呼ばれているのがそれで、真光系教団では

「手かざし」による「真光の業」がある。手の平を相手にかざすことで靈障を取り除くとされますが、その最中に忘我の状態になるなど靈的体験が得られるとされる。また真如苑では「接心修業」と呼ばれる修法があり、ここは教団お墨つきの靈能者がわんさという靈能教団です。靈的指導者を中心に数人のグルーピングで行われ靈性のより高次な世界へとプログラムに沿って導いていくシステムがつくられています。

既成宗教において、例えば寺院、神社で祈願をし、あるいは仏壇に手を合わせて先祖の供養をするといったレベルの宗教行為とは、これはかなり性格を異にする。それぞれに秘儀を経験することで人格転換をし、積極的な信者になっていく。ですから、「洗脳」は言い過ぎにしても、宗教における「生まれかわり体験」というのがあります。筑波大の小田晋教授（精神病理学）によればそのメカニズムはこうです。

「例えば、人間を狭い場所など感覚遮断の状態に置くと現実から意識が離れる。ときにはトランス（忘我）状態になる。その時に、新しい信念を注入すると新しい信仰が起ってくる」

もっとも、この感覚遮断は古来、日本の宗教になじみの深山幽谷での修行や、また太鼓をたたき題目や念仏を唱えることでも起こる。

宗教には古いおなじみのものでもあるわけです。しかし今日、再び神秘体験をするのに、一部の宗教が暗示性を高めるのに使っているのではないか。その形跡があると言いうのです。ですから、新新宗教や新宗教は一見したところたわいなく、まさに「若者のディズニランド」に見えるかもしれません。しかしその表層とは別に、背後にはこうした直接的な宗教体験の部分が隠されている。「フライデー」事件での幸福の科学の景山民夫氏、小川知子さんのホットぶりはショックでした。幸福の科学自体は歴史が浅く、組織も形成途上でした。事件が起こるともろくも崩れた。無理もない一面がありました。大多数の会員は大川隆法氏のファンクラブのメンバー的存在でまだまだ組織化が来ていませんでした。しかし宗教体験を経た中核部分は存在する。景山、小川さんの姿はそう見ると納得がきます。

イエ・ムラから脱却を

さて、今日の話の最後ですが、既成宗教と比べてどんなことが言えるでしょうか。あえて一つにしばって言えば、それは既成の仏教や神道などの宗教が個人救済の宗教でない。その能力を失っている。そういう姿が見える気がするのは。日々の暮らしの中で人々は、人生の困難、孤独や不安——そこから依るべ

きものとして宗教に目を向けたとして、既成宗教に応えるものがなくなっている。個人を相手にし、個人救済の情報発信を続けているのが新新宗教、新宗教です。「イエの宗教」に転落して久しい仏教と、「ムラの宗教」の神道。どちらも「イエ」「ムラ」といった共同体の宗教です。個人はそうした共同体に奉仕し献身すべき存在との説教を江戸時代さながらに今も続けているのではないのでしょうか。

仏教に関して言えば、親鸞や法然、日蓮の仏教はそうではなかったはず。新新宗教や新宗教がもてはやされる宗教状況、それは既成宗教のあり方と無縁ではない。少なくとも、他人ごとではないという気がするのです。

本原稿は、講演テープをもとに講師が改めてご執筆を下されたものです。

【事務局】

平成四年度 会員活動報告

会員四十七人のうち二十七人から活動報告書の提出がありました。なお、首長は①欄は空白となります。また回答の記載がない場合は空欄としました。

- ① 所属委員会
- ② 本年度取り組んでいる事柄
- ③ 今後取り組みたい課題
- ④ 私の政治理念・モットー
- ⑤ 本会で海外視察を実施した場合、参加するか・参加しないか。
参加すると答えた人は訪れたい国、施設等。

楯 大亮

北海道 南富良野町長 6期
北海道・上川南・玄正寺住職

- ① 無農薬野菜栽培と、それを原料としての農産物加工施設の設置
- ② 三十センチメートル直径のからまつ材を
使ったのログハウス建設（宿泊二十四人、五十人から七十人収容できるレストラン）
- ③ 町の自然を生かした観光開発等
- ④ 町民の和と教育も産業も町政すべての面で自然を大事にしていきたい
- ⑤ 無回答・その時期によって参加も考えられる

柴田 薫心
北海道 札幌市議 4期
北海道・札幌・宝流寺住職

- ① 国際都市特別委員・建設常任委員
- ② 〇 参議員選挙に於ける完勝
〇 各区サミットの要望解決
- ③ 全天候型ホワイトドームの建設計画の具体化
- ④ 自民党の札幌市連幹事長の要職に有り、国民の為の政治を基にしている
- ⑤ 参加・特に希望なし

花木 肇正
富山県 大島町議 4期
高岡・射水・称念寺住職

- ① 総務常任委員会
- ② 議会運営委員会が常置された事につき、委員会のあり方、機能について
- ③ 絵本館建設に伴う種々のあり方 etc
住民のニーズをいかに実現してゆくか
高齢化の問題 人口増を考える時、土地
政策
- ④ 清潔・信念・実行力 人を愛する
不参加

中田 宗人
岐阜県 明方村議 4期
岐阜・郡上・円光寺住職

- ① 総務文教委員会、観光開発特別委員会
- ② 〇 高齢化社会に向けた福祉活動の推進
〇 生きがいに夢のもてる地域造り

③ 農山村の特質を生かし、観光（リゾート）立村としての躍進による住民所得の向上をめざす

④ 誠実
⑤ 参加

山田 眞澄 三重県 東員町議 9期
東海・員弁・浄源寺住職

① 教育民生

② 総合グラウンドの完成を前にスポーツクラブの育成

下水道工事の繰上げ完成、平成十七年完工を四年繰上げるよう財政の見直しを行っています

③

④ 人間の尊重・地方自治・民主主義

⑤ 不参加 町村では違いすぎて、あまり参考にならないと思うから

安藤 智純 三重県 尾鷲市議 3期
東海・勢南・光円寺住職

① 総務常任委員会、文化会館建設特別委員長

② 〇文化会館建設にかかわる案件（建築工程、音響、設備、備品等）及び地方における文化活動について（享受と創造）

〇地方自治と財政問題

③ 〇高齢化、過疎化と行政の諸問題

〇グローバルな視点をもった環境問題

④ 今の時の道徳、己の分を思量せよ

⑤ 不参加 当分、二日以上留守にする事ができかねる為

堅田 昭磨 滋賀県 高島町議 1期
滋賀・高島・慈敬寺住職

① 総務常任委員会

② 私費により健全な子供を育てる為、三千平方メートルの土地に子供の森設置（手続中）

③ 右記事業完成の上、山村であるため都会の子供との交流を実現したい

④ 三十六年間の公務員生活を議会に生かしたい

⑤ 参加 中国・インド
黒田 昭信 滋賀県議 1期

滋賀・犬上南・教得寺住職

① 文教警察委員会、びわ湖総合開発委員会
信楽高原鉄道対策委員会

② 学校教育、社会教育のあり方と青少年の健全な育成

地域の発展と経済の安定

びわ湖総合開発事業の推進

びわ湖空港の設置

③ 農業振興と農業経営としての基盤整備
④ 和をもって尊しと為す

心に健康を持つ

⑤ 無回答 具体性によって参・不参を決めたい

梅津 正純 滋賀県 山東町議 1期
滋賀・山東・宝安寺住職

① 厚生委員会（副委員長）

② ゴミ処理、特老ホーム、水道、ふる里創生（鴨とホタルの里）、小学校改築

③ 老人対策、公害対策

④ 健康で清新な心のゆたかな町づくり
⑤ 参加 フランス・ドイツ・スイス

永原 智徳 和歌山県 由良町議 2期
和歌山・日高・教専寺住職

① 厚生文教委員

② 地域福祉センター施設

③ ゴルフ場建設並びに農業問題

④ 地域活性化、地域住民の声を

⑤ 参加 平成四年六月二十四日、カナダ訪問

谷川 正秀 兵庫県 尼崎市議 1期
兵庫・阪神西・万徳寺衆徒

① 未定

② 〇教育制度の見直しについて

〇尼崎のベイ・エリアの開発について
（ウィジョンと二十一世紀に向けての

基本施策)

- ③ 住みよい町、尼崎をめざして、福祉、教育の充実に向けての取り組み
- ④ 愛の市政、心の市政、知恵の市政
- ⑤ 参加

小泉 玲子 兵庫県 御津町議 1期
兵庫・網干・浄泉寺衆徒

- ① 福祉厚生委員会
- ② 福祉センターの建設。すべての町民が地域社会において、快適で豊かな生活を営むうえで、健康の増進と福祉の充実が基礎的な条件と考えている

- ③ 環境問題
- ④ 活力のある町づくり。若者が住みやすい町づくりをするため、住民の意見を聞く場を機会あることに設けたい

- ⑤ 参加 できれば参加させて頂きたく存じます。日程とかの都合ではっきりした回答はできませんが、よろしく願っています。ヨーロッパ

- ① 経済常任委員会
- ② 高齢化(少子化)対策
- ③ 人材育成
- ④ 政教の問題

竺川 紹隆 島根県 金城町議 2期
山陰・福屋・浄光寺住職

- ① 経済常任委員会
- ② 高齢化(少子化)対策
- ③ 人材育成
- ④ 政教の問題

- ⑤ 参加 インド

松元 顕正 島根県 仁摩町議 3期
山陰・仁摩・松源寺住職

- ① 産業・更生委員
- ② 老人福祉
- ③ 老人福祉

- ④ 行政マンも議員も一つの行政倫理をもつこと
- ⑤ 不参加

的場 利健 島根県 江津市議 1期
山陰・江津・西楽寺住職

- ① 文教厚生委員
- ② 学校教育
- ③ 福祉(高齢者)
- ④
- ⑤

藤谷 一剣 島根県 匹見町議
山陰・益田・蓮長寺住職

- ① 経済委員会
- ② 若者定住化と高齢者福祉
- ③ 高齢者を中心とした福祉問題
- ④ 声なき声を反映した政治
- ⑤ 参加 福祉関係く北欧を含め、進んでいる国

大前 勝乗 香川県 坂出市議 6期
四州・飯山北・善光寺住職

- ① 総務委員会
- ② 鉄道高架事業で、懸案の北側仮線の用地買収がほぼ完了し、現在、仮駅舎の建設、仮線敷の準備に着手している

- ③ 今後、国の補助金及び本市予算の確保等も行いう中で、本体工事のすみやかな進捗を図り、鉄道高架事業の早期完成を図りたい

- ④ 中心市街地活性化のため、坂出駅周辺地区再生計画を策定した。その核となるものが、坂出駅北口市街地再開発であり、既に再開発研究会を設立し、今後、準備組合、本組合に移行して事業の完成を図る。また、高架事業完成にあわせた事業の推進が肝要である

- ⑤ 無回答 時期による

久保 玄爾 山口県 防府市議(議長) 3期
山口・防府・信行寺住職

- ① 経済委員会
- ② 〇 地方都市としての経済の活性化
- 〇 若者の定住する町づくり
- 〇 自然環境を生かした憩いの場づくり等
- ③ 〇 高齢化社会対策、ねたきり・ちほう症老人対策

- ③ 産業廃棄物、環境汚染対策
清潔、公正な政治
- ④ 不参加

秋里 勝道 山口県 美東町議 3期
山口・美祢東・明楽寺住職

- ① 総務
- ② ゴルフ場問題
- ③ 町総合整備計画
- ④ 参加 中国
- ⑤

藤谷 光信 山口県議 1期
山口・岩国・教蓮寺住職

- ① 文教警察委員会
- ② 地域振興、文教施設の充実、道路網の整備、岩国基地（米軍・自衛隊）の開放
- ③ 大学の誘置、米軍岩国基地の開放、県政の刷新
- ④ 市民のための政治
- ⑤ 参加 ハワイ、アメリカ、ブラジル、ヨーロッパの官庁・宗教施設・福祉施設など

川越 証真 山口県 美祢市議 6期
山口・美祢西・西音寺住職

- ① 教育福祉委員会 企業誘致対策特別委員会
- ② ニュータウン構想、産業地域振興

- ③ 美祢西インターチェンジ設置、産業地域振興
- ④ 市民を裏切らない政治、真実一路
- ⑤ 参加 ハワイ・北米

林川 昭 福岡県 豊前市議 3期
北豊・上毛・明泉寺住職

- ① 建設委員会
- ② 都市計画、特に文化的施設の充実
- ③ 地域の活性化
- ④ 人間が大切にされる社会
- ⑤ 参加 C I S・ソ連（解体後の教会を見学したい）

國東 利行 大分県 宇佐市議 2期
大分・宇佐・極楽寺住職

- ① 文教社会委員会
- ② 文教予算の増額
- ③ 文化・歴史的まちづくりの推進
- ④ 右と同じ
- ⑤ 不参加

衛藤 龍天 大分県 久住町長 3期
大分・岡・安照寺住職

- ①
- ② 〇バブル崩壊後のリゾート計画の收拾

- ③ 〇中学校改築
- 〇平成二年水害、平成三年風害の復旧（今年で終了）
- ③ 〇高齢者比率二十三パーセントを超えなかったので、在宅老人の福祉のための介護支援センターを建設して、老人福祉活動を進めたい

〇生活排水の浄化のため、集落排水施設を拡充したい

- ④ 町政：自立自助、連帯協調、創造飛躍
- ⑤ 不参加 日程の調整ができないと思います

荒木 月秋 佐賀県議 2期
佐賀・松浦・尊光寺前住職

- ① 文教厚生委員会
- ② 県政の基本理念、基本目標、基本構想に環境、福祉、文化を目配りし、生きることを実感できる社会基盤づくり
- ③ 自然と人の環境問題
- ④ 子供達に希望を 若人に夢を 老人にやさしさを
- ⑤ 無回答 日程次第、仏跡

隈部 弘正 熊本県 菊鹿町議 3期
熊本・山鹿・光厳寺住職

- ① 建設常任委員会（議長）

② 〇 特別養護老人ホーム建設

〇 有機液肥供給施設建設

〇 特産工芸村の設立（建設）

〇 その他

③ 文化の里の建設

④ 照一隅、清廉潔白

⑤ 不参加

尾前 新了 宮崎県 椎葉村議 4期
宮崎・椎葉・浄行寺住職

① 総務常任委員会

② 福祉施設の充実（特老建設）

③ 高齢化社会に向かつての医療の充実

④ 対話の政治

⑤ 無回答

平成四年度

総会報告

一、日時 平成四年五月二十六日(火)

午前九時から午後一時まで

二、場所 宗務総合庁舎三階和室

三、開会式 〇 讃仏偈 〇 総長挨拶 〇 恩徳

讃

四、総会

① 代表世話人挨拶 川越証真
② 議長選出・挨拶 花木肇正

③ 平成三年度決算報告

④ 平成三年度事業報告

⑤ 平成四年度予算案（可決）

⑥ 平成四年度事業計画案（可決）

⑦ 海外視察計画について

⑧ その他

五、講演

「新新宗教はやりを考える」
毎日新聞大阪本社編集委員

横山真佳講師

六、座談会

テーマ「議員として思うこと」
座長 花木肇正

平成四年度

世話人会報告

（第一回）

一、日時 平成四年五月二十五日(月)

午後三時から五時まで

二、場所 宗務総合庁舎会議室四

三、内容 ① 平成三年度決算報告

② 平成三年度事業報告

③ 平成四年度予算案

④ 平成四年度事業計画案

⑤ 総会の進行について打ち合わせ

⑥ その他

（第二回）

一、日時 平成四年十一月十七日(火)

午後四時から五時三十分まで

二、場所 宗務総合庁舎会議室四

三、内容 ① 平成四年度会計中間報告

② 平成四年度事業中間報告

③ 平成五年度事業計画

④ 平成五年度総会について

⑤ 海外視察計画について

⑥ その他

会員の動静

（新入会員）

梅津正純（滋賀県山東町議）

滋賀・山東・宝安寺住職

藤谷一剣（島根県匹見町議）

山陰・益田・蓮長寺住職

（退会会員）

桜田正明（北海道議）

北海道・氷見東・本覚寺衆徒

（平成四年五月二十二日ご逝去）

藤野忠雄（山口県岩国市議）

山口・岩国・光福寺衆徒

（平成四年十一月二十七日ご逝去）